

産経新聞 2020年10月26日 「ひこぼえ倶楽部」への投稿掲載

(令和2年度入学) 高校1年(六か年コース) A組 水谷好太郎 君

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの学生が自粛を強いられた中、「映像授業」の利用が一気に広がった。

映像授業は自宅や好きな場所でいつでも自由に講義を受けられるのが、人気を博した主な理由だろう。学習環境の格差を縮める革新的な技術と感じる。

大学入学共通テストでの英語民間試験導入が見送られ、新たな英語試験が検討されているが、学校ではいまだ対策が不十分なケースがある。

塾を使う方法もあるが、首都圏に比べ地方は選択肢が少ない。何より金銭的負担が大きくなってしまう。

映像授業はネット環境とスマートフォンがあれば受講可能だ。対面授業と比べてローコストで、通学費もかからない。

大学入試改革は少々急ぎすぎではと感じることもある。

映像授業が教育の公平性を実現する一助となると期待している。